

教科等研究会 中学校技術・家庭（家庭分野）令和5年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

「学びを生かし、豊かな人生を育む技術・家庭科教育」
 ～生活での気づき・発見が喜びに変わる「分かる・楽しい」授業づくりを通して～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回 (小中合同)			第4回 (小中合同)		
期日	人数	場所	期日	人数	場所	期日	人数	場所	期日	人数	場所
5/29	6人	嘉島中	8/1	5人	甲佐中	11/28	3人	益城中央小	1/30	5人	小坂小

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 授業力向上を目的とした研究授業の実施

本会では全員が免許外指導者という状況であり、各学校における指導の充実を図るためには何が必要だろうかということを考え、まず各担当者が疑問に思っていることや困っていることを事前に調査した。そして、授業を通して生徒に家庭分野の授業の重要性や必要性を感じさせたいと考えた。また、生活に生かせる力を養うために指導者の授業力の向上が一番重要であると考え、研究授業を行うこととした。なお、小学校家庭科部会と合同での授業研究会を行った。なお、今年度は小学校家庭部会の授業研究会に参加し、小学校の実践から学び、中学校の授業実践の更なる充実を図った。

ア 研究授業（1月30日 場所：小坂小学校）

「あなたは家庭や地域の宝物」における「分かる・楽しい」授業の提案

授業者：小坂小学校 吉富 直哉 教諭

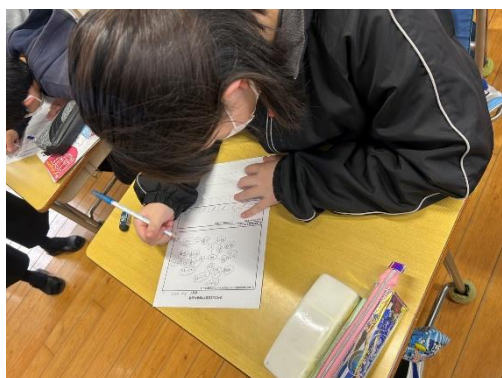


写真1 家族や自分の役割を可視化できるイメージマップ



写真2 保護者からのメッセージを見て喜ぶ様子

(ア) 自評及び意見・感想

- 子ども達は、家庭で役に立っているという感覚や地域とのつながりを感じられていないため、考えやすいように家庭と地域とを分けて考えさせるようにした。良かった点は、家庭科の既習事項をよく覚えていた。子ども達が考えやすいようにイメージマップや家族からのアンケートを用意したので、普段落ち着かない子もよく集中して書けていた（自評）
- 家庭からのアンケートはとても良かった。一人の子だけなかったのが気になった。
- 課題を考えさせるときに、最初からグループ学習にした意図は？→実態として一人で考えにくい生徒が多い。そのため、他の子の意見を聞いて書けるように班活動を取り入れた。
- 子ども達の素直な発言が面白かった。その発言から問い返して心を揺さぶるとめあてに向かってより主体的に学ぶことができたと思う。
- 家庭科の授業をするとよく悩む。子ども達の実態から授業を作っていくことが大切だと改めて感じた。「よりよい生活とは？」を共通理解して取り組むとゴールがよりわかりやすいと感じた。

② 内容B「衣食住の生活」における実技研修の実施

ミシンの糸の準備や扱う際の注意点について、ジャノメミシンの内田様を講師に迎え、実習を行った。また、蒸し料理の調理実習としていきなり団子の調理実習を行った。



写真3 ミシンの準備について説明を聞く



写真4 いきなり団子の調理の様子

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

① 授業力向上を目的とした研究授業の実施

- 授業研究会を通してお互いの実践を深めることができた。また、会員が授業を行う上での悩みや工夫点についても情報を交換することができ、大変有意義であった。
- 小学校との合同の授業研究会では、小学校家庭科の視点からも意見交換ができた。小中で共に学ぶことであってもその学習の方法や形態、めあてが違うことが分かり、児童生徒の発達段階に合わせて学習方法や課題の提示の仕方を検討することの大切さを学ぶことができた。
- 家庭科(家庭分野)の授業は人権教育とつながる部分があることを学ぶことができた。授業作りの前に、子ども達のくらしや家庭について把握した上で、課題や問いを考えさせる際には十分に配慮が必要であることがわかった。
- 免許外指導者で構成されている部会のため、自分自身の授業実践で大丈夫なのかが不安である。お互いに授業を見合う中で意見を交換し、学んだことを自分の実践に生かしていることが最大の成果である。
- 小中共に部会員が少なく、授業者の選定に苦慮している。今後も特定の会員に偏ることなく、より多くの会員が授業を行い、幅広く研修を行えるようにしていかなければならない。

② 内容B「衣食住の生活」における実技研修の実施

- ミシンの基本的な使い方について、専門家の方に丁寧に教えて頂きとても良かった。また、ミシンが壊れたり調子が悪いときの対処法についても触れて頂き、原因と解決方法をしっかりと学ぶことができて良かった。
- いきなり団子の調理実習は、学校の実践でも必要とされるため、とても有益なものであった。特に、調理の過程や実習の方法など、普段一人では難しいことが相談しながら実習できたのがよかった。
- とても有意義な研修であるが、参加者が少ないのが残念であった。免許外指導者の指導力向上のためにも、来年度も各学校1名の参加を呼びかけていきたい。

4 実践事例

(1) 学習構想案抜粋 (小坂小 吉富教諭)

4 本時の学習

(1) 目標

家庭生活の課題に気づき、解決方法を話し合うことを通して、家庭をよりよくする工夫を考えることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	10分	<p>1 見つめよう</p> <p>①家族のことを見つめる ◇家族には毎日ご飯を作ってもらっている。 ◇悩んだ時に相談にのってくれる存在 ◇時々自分も皿洗いの手伝いをしている。</p> <p>【めあて】 自分の生活を見つめ、家族のためにできることを考えよう。</p> <p>【学習課題】 「協力」の視点から、自分の生活は家族とどのように関わっているのだろうか。</p> <p>②これまでの家庭科の学習をふりかえる ◇調理をした。 ◇ミシンを使ってエプロンを作った。 ◇家族との時間を考えた。 ◇夏や冬の暮らし方の工夫を調べた。</p>	<p>○事前アンケートの結果から、家庭でしている手伝いや家族との関わり提示し、自分の家庭での生活を見つめることができるようにする。 ○本時は「家族」に焦点を当ててできることを考えていけるようにする。</p>
展開	30分	<p>2 自分の生活をふりかえる</p> <p>①家庭のことを考える ◇朝ごはんの準備が大変そう。 ◇洗濯物を畳むのに時間がかかっている。 ◇家事が忙しそうで、ゆっくり過ごしていない。 ◇自分が気づいていないことでも家族が協力してほしいと思っていることがある。</p> <p>②それぞれの課題を解決するためにグループで話し合い、自分にできることを見つけ、実践計画を立てる。 ◇健康な朝ごはんを自分が考えて作る。 ◇洗濯物を畳む手伝いをしたい。 ◇自分のために頑張っている親に感謝の気持ちを伝えたい。</p> <p>③全体で共有する</p> <p>【期待される学びの姿】 家族の一員として、家族との関わりについて考え、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとする姿</p>	<p>○家庭での課題を考えることで、「協力」という視点から児童がよりよい家庭生活にしていくことを意識できるようにする。 ○保護者からのアンケートを提示し、保護者の視点から協力してほしいことなどを踏まえて実践を考えることができるようにする。</p> <p>○2年間の学習を生かして、課題を解決するためにできることはないかを考えさせ、実践したいことを決めることができるようにする。 ○これまで実践していることをよりよくすることや対話の中から新たな実践を考えていくことができるようにする。 ○対話的な場面を通して、自分だけでは気づきにくい課題や工夫にも目を向けられるようにする。</p> <p>【具体の評価規準】 視点 ○家族とのよりよい関わりについてさまざまな解決方法を考え、工夫している。 (方法：ワークシート)</p> <p>【到達していない児童への手立て】 全体で共有することで、家族のために自分にできそうなことは何かを考えることができるようにする。</p>
終末	5分	<p>3 本時の振り返りをする</p> <p>【まとめ】 家族のためにできることはたくさんあり、学んだことを生かして家族の一員として協力していくことが大切である。</p> <p>①本時の感想を書く ◇家族がたくさん協力していることに気づいた。 ◇家庭科の学習を生かして、家でも調理の計画を立てたい。</p>	<p>○自らの学びを調整したり、実践したりしたいことを整理し、一人一人の振り返りを具体的に行う。</p>

あなたは家庭や地域の宝物

名前()

① 自分と家族の役割について考えるイメージマップを書きましょう

家族

② 実践計画を立てよう

<自分が決めた実践>		<その実践にした理由>					
日付	/	/	/	/	/	/	/
◎:よくできた ○:できた ×:できなかった							
<実践のふりかえり>							
<家族からのコメント>							